

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(9月29日～10月5日)

2018年10月26日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- マケイ外務大臣が第73回国連総会に出席(10月1日～3日)
- ロシアNIS貿易会のミッションの来訪(10月2日～4日)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●CIS 首脳会合の開催(9/28, ドウシャンベ)

ルカシェンコ大統領は露TV局のインタビューで、「出席した首脳はいずれも、安全保障問題について発言した。(テロの脅威という面では)平穏なベラルーシにおいてさえも、ベラルーシ・ロシア連合国家の国境付近での西側諸国や北大西洋条約機構(NATO)による行動が孕む危険を念頭に、安保問題は常に議論されている」と発言。同大統領は、本件についてプーチン露大統領と秘密裡に議論したと付言。

会合における参加各国首脳の発言(要旨)

・ルカシェンコ大統領:

国際貿易システムが、西側諸国からの一方的な押し付けにより、崩壊しつつある。グローバル市場での利益保護のために力を合わせ、同時に(CIS加盟国)相互の貿易と投資を活発化し、産業協力を拡大すべき。

CISにおける協力は、大ユーラシア統合プロセス、特に上海協力機構(SCO)における協力と調和を取るべき。ベラルーシは既に産業特区『巨石』で一帯一路に参加。」

・プーチン露大統領:

CIS諸国間の貿易高の増加を指摘。自国通貨による相互決済の拡大を呼びかけ。

・ナザルバエフ・カザフスタン大統領:

国家間の貿易障壁除去が必要。

(9月28日付国営ベルタ通信, 29日付「ソヴェツカヤ・ベラルーシ」紙)

【外交】

●ベラルーシの人権状況に関する国連特別報告者の交代

9月28日, 同報告者としてフランス人のアナイス・マラン女史が任命。現職のミクロシュ・ハラスティ氏は本年10月末まで在任する。

ベラルーシ当局は特別報告者との協力を拒否しており, 10月1日, 外務省グラス報道官は, 本件に関するベラルーシの立場が変わっていないとコメント。

(9月30日, 10月1日付ベラパン通信)

●マケイ外務大臣の国連総会出席

10月1日から3日にかけて, マケイ外務大臣は第73回国連総会に出席。

一般討論演説(要旨)

・ウクライナでの紛争と地域での緊張, 制裁合戦により, ベラルーシは間接的ながらも多大な経済的損失を被っている。ベラルーシはユーラシア経済同盟(EAEU)と欧州連合(EU)の接近に関心。引き続き「統合の統合」という理念を推し進める。

・持続可能な開発のための2030アジェンダ達成のため, 中所得国に対する国際的支援を呼びかけ。

・国連に対し, デジタル経済における途上国支援と, デジタル化による利益の増大・その公平な分配のための国際協力構築を提案。

・民主主義の強制や合法的政権を武力で切り崩すことによって「共通の価値観」を形成できない。

・第一に国家主権を尊重して, 各国が自国の統治形態や発展の優先分野を選ぶ自由を重んじ, 互いに内政に干渉しないこと。第二に, 内政面での国家の役割を強めること。

第 73 回国連総会本会議への出席

2 日、マケイ外務大臣は第 73 回国連総会本会議で演説。今年の本会議は、故ネルソン・マンデラ元南アフリカ共和国大統領生誕 100 年を記念したものとなった。同外相は演説の中で、マンデラ氏が実践した理想と原則を軽んじることは許されるべきでないことを強調。

エスピノサ国連総会議長との会談

同日、マケイ外務大臣は国連本部において、マリア・フェルナンダ・エスピノサ・ガルセス第 73 回国連総会議長と会談。席上、同外相は、SDGs 達成のための各国調整官のデータベース構築というアイデアへの支持を要請。「エ」議長は、人身取引との戦いにおけるベラルーシの役割を高く評価。

二国間の外相会談

またマケイ外務大臣は、スーダン、シリア、トルクメニスタンとの二国間外相会談を行った。
(10 月 1 日、2 日付外務省公式サイト)

●マクドナルド英外務・英連邦省事務次官の訪問

10 月 1 日、マクドナルド英外務・英連邦省事務次官はベラルーシを訪問し、クラフチェンコ外務次官、エルモロヴィチ財務大臣とも会談した他、市民団体代表や英国の大学卒業生とも面談。
(10 月 1 日付外務省公式サイト、国営ベルタ通信、ベラパン通信)

●カザナ=ヴィシネヴェツキー国連ベラルーシ国連常駐調整官のベラパン通信インタビュー要旨 (10/3)

- ・ベラルーシは SDGs 実現に積極的に協力。
 - ・同常駐調整官の優先的業務は、アルコール問題の解決、SDGs 実現、人権に関する計画の実現支援、及び 32 年前のチェルノブイリ原発事故の被災地の持続的発展の支援。
 - ・国連代表部とベラルーシは共に、国連事務総長訪問の準備ができている。実現に向けてできる限りのことをする。
- (10 月 3 日付ベラパン通信)

●東方パートナーシップ参加国と EU 加盟国の間 の高級実務者会合の開催(10/4, ブリュッセル)

クラフチェンコ外務次官が出席。会合では、10 月 15 日の外相会合に提出される、2020 年までの同枠組みにおける 20 の優先事項の進捗状況等が議論された。同次官は、肯定的進捗が見られる点として、運輸分野における具体的投資プロジェクトの策定、経済のデジタル化、参加国同士のモバイル・ローミングの値下げに関する合意、若者・教育分野での協力、人的往来の発展を挙げた。
(10 月 5 日付外務省公式サイト)

経済

【国内経済】

●汚染物質の処理に向けたプロジェクト:フドイク 天然資源環境保護大臣の発言要旨(9/30)

地球環境ファシリティ(GEF)から拠出された 1,200 万ドルを使用して、①2019 年にゴメリ州チェテルスク地区における残留性有機汚染物質(POPs)の処理工場の建設の開始、②ポリ塩化ビフェニール(PCB)の廃棄の 2 つのプロジェクトを実施予定。
(9 月 30 日付国営ベルタ通信)

●IMF 中・東・南東欧駐在上席代表の訪問

10 月 1 日、ルマス首相はミンスクで、国際通貨基金(IMF)のナディーム・イラヒ中・東・南東ヨーロッパ駐在上席代表と会談。首相は、政府の新たな方針として、経済の競争力向上、市場機関と私的所有権の強化、均衡の取れたマクロ経済政策の遂行を強調。両者は、本年 11 月の IMF 協定 4 条協議(いわゆる「国別サーベイランス」)での建設的協議に期待を表明。
(10 月 1 日付ベラパン通信)

●今後 5 年間で幹線道路上の 32 か所の橋を改修

10 月 2 日、シヴァク運輸交通大臣は、本件に付き、欧州復興開発銀行(EBRD)との交渉で先方から合意が得られている旨発言。
(10 月 2 日付国営ベルタ通信)

【対外経済】

●エルモロヴィチ財務大臣:2020 年に IMF との融資交渉再開の見込み

9 月 30 日, 同財務大臣はベラルーシが国際通貨基金(IMF)との新たな融資交渉を 2020 年に再開することへの期待を表明。理由として, 国家発展 5 か年計画が 2020 年に完了するなど経済構造改革の進展, 2019 年は IMF からの融資やユーロ債の新規発行なしで債務償還できる見込みとの点を挙げた。

ベラルーシは IMF と 30 億ドルの融資交渉を行っていたが, IMF の求める住宅公共サービスの住民負担増加やその他の勧告の履行に同意しなかったため, 昨年夏に交渉が一時中断していた。

(9 月 30 日付ベラパン通信)

●ロシア NIS 貿易会ミッションの来訪(10/2-4)

村山 ROTOBO 会長(川崎重工業会長)率いるミッションがベラルーシを訪問。

(10 月 3 日付国営ベルタ通信, ベラパン通信)

●中国国際輸入博覧会(本年 11 月)出展に向けた記者会見(10/4)要旨

・本年のベラルーシの対中輸出が, 商品とサービスの合計で 8 億ドルに達する見込み。

・中国からの輸入につき, ベラルーシ企業が組み立てる中国製のコンポーネントや部品等で完成後に中国に販売されるものは輸入には当たらない。

(10 月 4 日付ベラパン通信)

●露との借り換え融資や石油分野での損失補填を巡る交渉(10 月 5 日, ルマス首相記者会見)

・ロシアからベラルーシに対する融資が 2019 年に提供予定。ロシア側は対露債務のみの借り換えを提案。ベラルーシ側は露だけでなくユーラシア安定化発展基金(EFSD)に対する債務分の借り換えも提案し, 現在交渉中。

・ロシアで現在進められている(鉱物資源採掘税を引き上げる代わりに輸出関税を引き下げて相殺するという)石油分野での税制改革に伴ってベラルーシが被ることになる損失の補填に関し, 両国

は年内に補償メカニズムを策定すべき。

(10 月 5 日付ベラパン通信)

【統計・その他】

●人口動態(国家統計委員会)

2018 年初頭のベラルーシの 60 歳以上の人口は, 204 万 1,100 人(総人口の 21.5%)。2017 年の平均寿命は男性 69.3 歳, 女性 79.2 歳。

(10 月 1 日付国営ベルタ通信)

(了)